



日本感情心理学会第 31 回大会 大会プログラム

大会テーマ「感情を表現する」



会期：2023年5月26日（金）～5月28日（日）

会場：松山市立子規記念博物館

公立共済やすらぎの宿にぎたつ会館

人間環境大学松山道後キャンパス

主催：人間環境大学総合心理学部

発表プログラム

一般公開企画「俳句と感情の心理学」

日時：2023年5月27日（土） 13:20～16:20

場所：松山市立子規記念博物館 4階講堂

日本感情心理学会は、人のこころの動きが最も感じられる「感情」を科学する学会です。この度、松山道後の地で、日本感情心理学会第31回大会を開催することになりました。そこで、松山道後でしか出来ない企画に、市民の皆様をご招待致します。松山市は俳人正岡子規出生の地でもあり、「俳句の街」を標榜しています。俳句は、古来より日本人に馴染みのある感情表現手法です。テレビ番組「プレバト」の辛口コメントでもおなじみの夏井いつきさんは松山出身で、俳句作りを楽しみながら学べる「句会ライブ」を展開しておられます。今回、夏井いつきさんの息子さんであり俳人の家藤正人氏より、その「句会ライブ」を実施して頂きます。

また、これに先立ちまして、鳴門教育大学の皆川直凡先生より、「俳句と感情」についての特別講演を頂きます。俳句というメディアを通して、感情を表現することについて、知識と実践の両面からアプローチしてみたいと思います。多くの皆様に、俳句と感情と心理学を楽しんでもらえればと思います。ぜひお気軽に足をお運び下さい。

第1部（13:20～14:20）

特別講演「俳句と感情」

講演者：皆川 直凡先生（鳴門教育大学）

俳句は、季節との出会いに伴う感動をわずか十七音で表現するミニサイズの定型詩です。俳句には、感じる喜び、知る喜び、そして、考える喜びという3つの喜びがあります。その背景には人との触れ合いがあり、語り合うことで、一つ一つが深まっていきます。「感じる」「知る」「考える」は、人間の認知過程そのものであり、人間は触れあうことと語り合うことによって支えられています。このように、俳句はマインドフルであり、作者の心情に満ちあふれています。しかしながら、俳句では、「うれしい」「楽しい」「哀しい」「美しい」というような、感情や感動を直接表す言葉はまれにしか使われません。直接言ってしまう代わりに、季語に託して表現するためです。このことが読む人の心の琴線に触れ、作者と読者の心の交流が生まれるのです。心理学の知見を参照しつつ、いくつかの事例をとりあげ、俳句と感情との関わりについて考えてみたいと思います。

第2部（14:30～16:20）

体験企画「句会ライブ」

指導者：家藤 正人先生（夏井&カンパニー）

大会企画シンポジウム

シンポジウム1「多様な動物の表情研究から感情表出を考える」

日程：5月27日（土）9：30～11：00

会場：松山市立子規記念博物館 4階講堂

- **企画者**：中嶋 智史・金谷 英俊（人間環境大学）
- **司会者**：中嶋 智史・金谷 英俊（人間環境大学）
- **話題提供者**
 - 高野 裕治（人間環境大学）
「表情を顔から解き放つ：動物種を超えてユニヴァーサルな表情機能」
 - 花塚 優貴（愛知淑徳大学）
「オランウータンの描く絵画に'感情'は表れるか」
 - 瀧本 彩加（北海道大学）
「ウマにおける表情の表出と知覚」
 - 池田 譲（琉球大学）
「イカとタコの顔色」
- **指定討論者**：佐藤 隆夫（人間環境大学）

ダーウィンはその著書『人及び動物の表情について』において、ヒトの表情と他の動物種の表情には連続性があり、進化の過程を経て獲得された形質であるとともに、ヒトの表情は文化に依らず普遍的なものであると述べている。これまでの感情研究の文脈において、「表情がヒトにおいて普遍的であるか」という点については、比較文化心理学および文化心理学において多くの研究が行われている。しかし、「ヒトの表情と他の動物種の表情に連続性があるか」という点については、これまで心理学において十分に扱われてきたとは言い難い。

その一方で、近年、げっ歯類を用いた疼痛の治療薬開発のための精神薬理学的研究や、イヌ、ネコ、ウマ、ウシ、ヒツジなどの伴侶動物・家畜のウェルフェア研究の文脈において、動物の表情研究が大きく発展している。本シンポジウムでは、高野先生にげっ歯類の表情研究、花塚先生にヒトの近縁種であるオランウータンの表情研究、瀧本先生に伴侶動物の表情研究、池田先生にイカとタコの表情研究についてそれぞれお話頂く。こうしたヒト以外の多様な動物種における表情研究の発展について概観することを通じて、ヒトの感情表出について改めて考える切っ掛けとしたい。

シンポジウム2「遠隔支援は感情を表現し、孤独感を癒やす場となりえるか？」

日程：5月28日（日）13：10～14：40

会場：松山市立子規記念博物館 4階講堂

- **企画者**：横光健吾・武田知也（人間環境大学総合心理学部）
甲田宗良（徳島大学）
- **司会者**：有光 興記（関西学院大学）
- **話題提供者**
 - 末木 新（和光大学）
「SNSによる自殺予防における孤独感」
 - 大井 瞳（国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター）
「遠隔認知行動療法と孤独感」
 - 伊藤 義徳（人間環境大学）
「遠隔によるマインドフルネス認知療法が孤独感に及ぼす影響」
- **指定討論者**：佐藤 健二（徳島大学）

孤独感は、抑うつ、不安、自殺と関連し、心理支援の主要な介入ターゲットとなる感情である。近年 COVID-19 の感染拡大により、他者と物理的距離を取ることが推奨され、対人交流が制限され、孤独感を表現する機会が減少している。そのため、孤独感はより深刻な社会問題にもなっている。一方、この状況下では、SNS やビデオ会議ツールを使用した遠隔支援が進化・普及した。

そこで本シンポジウムでは、孤独感に対する SNS やビデオ会議を用いた遠隔支援の有効性について検討する。そのため、自殺における孤独感に対する SNS を用いた支援（末木）、孤独感に対する遠隔認知行動療法の有効性（大井）、孤独感に対する遠隔マインドフルネス認知療法の有効性（伊藤）に関する話題提供を行う。そして指定討論には、感情の筆記表現や認知行動療法に精通した佐藤を迎え、孤独感に対する遠隔支援の勘所を論じていただく。その後、フロアも交えながら、遠隔支援が表現の場として機能し、孤独感を癒やす場となり得るのかを議論する。

プレカンファレンス

日程：5月26日（金）15：30～18：30

会場：人間環境大学松山道後キャンパス5階（講堂/501教室）

1. 「ポジティブ感情のダークサイド」

- **企画者**：甲田 宗良（徳島大学）・武田 知也（人間環境大学）
- **司会者**：内田 香奈子（鳴門教育大学）・甲田 宗良（徳島大学）
- **話題提供者**
 - 菅原 大地（筑波大学）
 - 甲田 宗良（徳島大学）
 - 長谷川 晃（国際医療福祉大学）
 - 仲嶺 実甫子（北陸大学）
- **指定討論**
 - 大平 英樹（名古屋大学）
 - 坂本 真士（日本大学）

企画の趣旨

ポジティブ感情は、個人の健康や幸福はもちろん、対人関係や組織・集団の構造や機能にも、文字通りポジティブな影響を及ぼす感情である。そのため、ポジティブ感情を取り扱う心理学研究の多くは、その適応性を前提とし、ポジティブ感情を増大させるアプローチの開発・洗練を目指す方向性のものがほとんどである。しかし、ポジティブ感情にも負の側面、すなわちダークサイドが無いわけではない。例えば、覚醒度の高いポジティブ感情が増大し過ぎることで、自己の健康を害したり、周囲との軋轢が生じることがある。また、人前でポジティブ感情を表現することを避けたり、自分がポジティブな状態になってはいけなくて強く信じるなど、健康や幸福を低減する方向の認知・行動プロセスの存在も知られている。こうしたポジティブ感情の功罪両面をフラットに理解することで、ポジティブ感情増進のアプローチも真に効果的になると思われる。

そこで本プレカンファレンスでは、本邦では未だ大きく扱われることのない「ポジティブ感情のダークサイド」にかかわる心理学的知見を紹介し、その研究の現状と発展について議論したい。まず初めに、ポジティブ感情を細分化することで見えてくるダークサイドについて菅原氏より話題提供頂く。次に、ポジティブ感情の障害と位置づけられる双極性障害の心理学的知見を甲田が紹介する。そして、長谷川氏には抑うつ的反すうを導く「幸福感を重視し過ぎる信念」について、仲嶺氏には自己を慈しむことが「できない」こと、すなわち「コンパッションへの恐れ」について、それぞれ実証的研究のデータを中心に話題提供を頂く。指定討論には、感情心理学研究の光も闇も知り尽くす大平英樹氏と、「ネガ

ティブ・マインド」の立場から感情の発生・持続のメカニズム研究を牽引する坂本真士氏を迎え、ポジティブ感情のダークサイドを切り拓くための視点を提供して頂く。最後に、参加者を交えた総合討論によって議論を深め、「ポジティブ感情のダークサイド」に陥らないための見識を得たい。

2. 「内受容感覚をどう研究するか」

- **企画者**：小林 亮太（福岡県立大学）・木村 健太（産業技術総合研究所）
- **話題提供者**
 - 小林 亮太（福岡県立大学）
 - 伊崎 翼（高知工科大学）
 - 本多 樹（広島大学）

企画の趣旨

近年、身体の生理状態の表象である内受容感覚（Interoception）についての研究数が急激に増加している。内受容感覚は、感情と密接に関連するだけでなく、認知機能や自己など幅広い心的活動と関わることから、心理学の重要な研究トピックといえるだろう。近年の研究数の顕著な増加は、内受容感覚を研究するための方法論の発展と関連している。たとえば、内受容感覚の測定に用いられる心理尺度、感覚刺激を心臓や呼吸などの生理活動に同期して呈示するシステム、内受容感覚を測定する実験パラダイムなどは、ここ10年ほどで急速に整備された。一方、これらの研究手法については、手法の妥当性や信頼性、各手法が対象とする内受容感覚の側面の違いについて議論もある。そこで本企画では、内受容感覚の研究手法を中心的なテーマとして、近年の内受容感覚の研究について若手研究者3名から話題提供をいただく。小林氏には心理尺度や経験サンプリング法等の調査法を用いた研究、伊崎氏にはネックチャンバーを用いた動脈圧受容器の実験的操作手法を用いた研究、本多氏には生理活動に合わせた刺激呈示や迷走神経刺激を用いた研究についてご紹介いただく。当日は、内受容感覚研究の今後の展開についての議論だけでなく、実際に内受容感覚を研究する上での苦労話といった実場面での話など、フロアを交えて議論していきたい。

一般研究発表

口頭発表 1

5月27日(土) 11:10~12:00 子規記念博物館 4階講堂

座長 池田 慎之介先生(金沢大学)

- OS1-1 「気をつけて」から「手を挙げて渡ってね」へ——見守り活動における声かけがもたらす小学生の行動変容——
上田 真由子(関西国際大学)
富田 瑛智(関西国際大学)
田中 亜裕子(関西国際大学)
- OS1-2 「温かい」画像刺激はアタッチメントの状態安定性を増幅させる——Security Priming に関する Attachment Affective Picture System の利用可能性の検証——
中井 和弥(環太平洋大学)
大浦 真一(東海学院大学)
- OS1-3 赤ちゃんのかわいさ知覚に赤ちゃんへの潜在的態度が及ぼす影響
池田 慎之介(金沢大学)

口頭発表 2

5月28日(日) 10:30~11:20 子規記念博物館 4階講堂

座長 関谷 大輝先生(東京成徳大学)

- OS2-1 感謝体験者による恩人の不正の隠ぺい——行動実験による検討——
山本 晶友(上智大学)
- OS2-2 これは冗談だって伝わってますよね!?——不適切な冗談の発言場面において起きる透明性の錯覚の実証——
佐藤 未奈(東京成徳大学)
関谷 大輝(東京成徳大学)
- OS2-3 手指運動が社会不安感に与える影響について
石塚 雄大(宇部フロンティア大学)
森本 裕子(宇部フロンティア大学)

口頭発表 3

5月28日(日) 11:20~12:10 子規記念博物館 4階講堂

座長 小林 亮太先生(福岡県立大学)

- OS3-1 内受容感覚と感情・覚醒チェックリスト (EACL) の関連の検討
杉浦 秀一(放送大学)
- OS3-2 経験サンプリング法と質問紙尺度により測定された interoceptive attention の関連
——Murphy et al. (2019) の 2×2 モデルの部分的検証——
小林 亮太(福岡県立大学)
本多 樹(広島大学)
- OS3-3 動画版感情読み取りテスト (VERT) の開発と年代別正答率の比較
山口 留亜(社会医療法人生長会府中病院)

口頭発表 4

5月28日(日) 14:50~15:40 子規記念博物館 4階講堂

座長 澤田 匡人先生(学習院女子大学)

- OS4-1 道具的動機に基づく他者の怒りの調整に関する日米比較研究
野崎 優樹(甲南大学)
小林 亮太(福岡県立大学)
- OS4-2 中年期女性に対する嫌悪とエイジズム
岩佐 和典(大阪公立大学)
澤田 匡人(学習院女子大学)
- OS4-3 階層の痛みと人並みの和らぎ——コロナ不況下における妬みと協調的幸福感の時
系列分析——
一言 英文(関西学院大学)
澤田 匡人(学習院女子大学)

口頭発表 5

5月28日(日) 15:40~16:30 子規記念博物館 4階講堂

座長 河野 和明先生 (東海学園大学)

OS5-1 オンラインの相互行為における感情規範

劉 沫好 (東京大学)

OS5-2 畏敬の念と穢れ観の関係

高野 了太 (東京大学)

松尾 朗子 (東京大学)

河野 和明 (東海学園大学)

OS5-3 高德な感情をめぐる東洋思想・西洋哲学横断的思索の試み——儒教における四端はトライアード情動なのか——

金澤 佑 (大阪大学)

ポスター発表 1

5月27日(土) 16:40~18:10 にぎたつ会館2階「楓の間」

- PO1-1 “触れる”2.5次元写真の心理的効果に関する検討
高岡 祥子(東北大学)
高野 裕治(人間環境大学)
瀧 靖之(東北大学)
- PO1-2 感覚処理感受性は恋人や恋人との関係の認知とどのように関わるか
服部 陽介(大手前大学)
- PO1-3 美を感じるのはいつから? —乳幼児の「キレイ」に普遍性はあるのか—
川口 めぐみ(東京未来大学)
- PO1-4 大学生はいつ「エモい」と感じるか
大上 真礼(金沢学院大学)
- PO1-5 「推し」という好意、「推す」という行為—大学生における「推し」概念の構成要素を定性的に検討する—
石川 奈々(東京成徳大学)
関谷 大輝(東京成徳大学)
- PO1-6 ロボットの涙はアニメシーの知覚を高める
安原 彰子(同志社大学)
竹原 卓真(同志社大学)
- PO1-7 「褒める」は他者(ひと)の為ならず? —褒め手が得る効果を検証するフィールド実験の試み—
香取 由奈(東京成徳大学)
関谷 大輝(東京成徳大学)
- PO1-8 その「おつかれさま」が部下を救う? —クレーム対応後の上司の声かけによる生理心理的効果の予備的検討—
嶋本 文菜(東京成徳大学)
関谷 大輝(東京成徳大学)

- PO1-9 俳句の創作経験と平穩感謝傾向の関連
加藤 樹里 (金沢工業大学)
檀割 仁平 (京都大学)
- PO1-10 嗅覚イメージと匂いプライミングが俳句の美的評価に与える影響
檀割 仁平 (京都大学)
野村 理朗 (京都大学)
- PO1-11 刹那的終焉は混合感情を喚起するか？
白井 真理子 (信州大学)
長峯 聖人 (東海学園大学)
- PO1-12 パーソナリティが新型コロナウイルスへの恐怖の変化に与える影響
谷 伊織 (愛知学院大学)
- PO1-13 道徳ジレンマにおける意思決定パラメータへの道徳不活性化の影響
古川 善也 (福岡大学)
- PO1-14 信頼を裏切られたときに生起する感情に関する日中比較
林 萍萍 (大阪商業大学)
- PO1-15 現代日本人の嫌悪対象集団の諸特徴－2022年には何が変わったか－
河野 和明 (東海学園大学)
中村 真 (宇都宮大学)
- PO1-16 ネガティブ感情区別の精緻化は抑うつを改善するか－経験サンプリング法介入による実験的アプローチ－
田島 勇二 (セントケア・ホールディング株式会社)
- PO1-17 Lineでの絵文字付与が印象に与える影響
北村 英哉 (東洋大学)
- PO1-18 オンライン上での他者の存在が脅威場面における認知機能維持に与える影響--情動ストループ課題を用いた検討--
西村 律子 (江戸川大学)
浅岡 章一 (江戸川大学)

阿部 雄大 (江戸川大学)
平島 太郎 (愛知淑徳大学)

PO1-19 視点取得能力の低さはビデオ・コミュニケーションにおける顔呈示への抵抗感を予測する

藤村 友美 (同志社大学)

PO1-20 日本語版 Perth Emotion Regulation Competency Inventory (PERCI-J) の開発

樫村 正美 (常磐大学)

PO1-21 日本語版 Salzburg Emotional Eating Scale (SEES-J) の作成

合澤 典子 (お茶の水女子大学)

竹村 美那 (お茶の水女子大学)

大森 美香 (お茶の水女子大学、東北大学)

PO1-22 自尊感情を受容・評価の2側面ならびに肯定的・否定的自己像の2側面で測定する短縮版尺度の収束的・弁別的妥当性の検討

箕浦 有希久 (佛教大学)

PO1-23 短時間のマインドフルネスが自律神経活動及び持続性注意に及ぼす影響

村上 裕樹 (大分大学)

PO1-24 認知症家族介護者の自他へのコンパッション/非コンパッション的傾向と認知症重症度評価と介護負担感との関係

関谷 祐史 (関西学院大学)

有光 興記 (関西学院大学)

PO1-25 短期セルフ・コンパッション・トレーニングの社会的評価ストレスへの効果—自分と他者への慈悲の瞑想による比較検討—

坂浦 伶菜 (関西学院大学)

梶本 誠人 (関西学院大学)

辻本 菜摘 (関西学院大学)

有光 興記 (関西学院大学)

ポスター発表 2

5月28日(日) 8:40~10:10 にぎたつ会館2階「楓の間」

- PO2-1 受容と評価の2側面からみた自尊感情と自伝的記憶の感情価の関係
田中 碧美(佛教大学)
箕浦 有希久(佛教大学)
- PO2-2 感動経験が想起される文脈と機能の検討—大学生の自伝的記憶およびアイデンティティとの関連の観点から—
橋本 巖(愛媛大学)
- PO2-3 人生の意味とポジティブ・ネガティブ感情の関係
島井 哲志(関西福祉科学大学)
- PO2-4 職場に関するノスタルジアの分類とその効果
長峯 聖人(東海学園大学)
菅原 大地(筑波大学)
黒田 莉沙(星和電機株式会社)
田川 順一(星和電機株式会社)
- PO2-5 焚き火動画視聴によるストレス軽減効果に関する研究
本多 明生(静岡理工科大学)
大高 翔斗(静岡理工科大学)
- PO2-6 選択行動が無意味図形の感情価に及ぼす影響—アイオワ・ギャンプリング課題を用いた検討—
飯田 沙依亜(愛知工業大学)
巖佐 正智(愛知工業大学)
小川 時洋(科学警察研究所)
- PO2-7 無自覚的な覚醒が感情知覚に及ぼす効果
柴田 浩史(名古屋大学)
大平 英樹(名古屋大学)
- PO2-8 感情の減衰バイアス(FAB)の個人差の検討

平井 佑哉 (関西大学)
関口 理久子 (関西大学)

PO2-9 ネガティブ感情がステレオタイプ化に及ぼす影響－「ドクターミス問題」を用いた検討

村田 光二 (成城大学)

PO2-10 高齢男性の「笑顔に見られない」顔は何が違うのか？

小泉 祥子 (株式会社マンダム)

澤田 彰子 (株式会社マンダム)

橋本 公男 (株式会社マンダム)

原 武史 (株式会社マンダム)

PO2-11 表情の定量的分析に基づいた作り笑顔の特徴の検討

下出 遥華 (金沢工業大学)

伊丸岡 俊秀 (金沢工業大学)

渡邊 伸行 (金沢工業大学)

PO2-12 顔に基づく知性判断における表情・構造手がかりの使用と人相学的信念の関連

鈴木 敦命 (東京大学)

PO2-13 表情認知における環境温度の影響

中嶋 智史 (人間環境大学)

請園 正敏 (国立精神・神経医療研究センター)

須藤 竜之介 (九州大学)

高野 裕治 (人間環境大学)

PO2-14 アタッチメント次元が表情の知覚時間と認知された感情価に与える影響

山口 正寛 (大阪教育大学)

西本 圭汰 (一般社団法人テトラ coco)

PO2-15 自我関与が不安喚起広告の説得効果に及ぼす影響

西端 玲美 (金沢工業大学)

加藤 樹里 (金沢工業大学)

PO2-16 商品及びレイアウトに対する単純接触効果

井上 和哉（東京都立大学）

安原 萌（東京都立大学）

PO2-17 詐欺脆弱特性と消費者被害経験に影響を及ぼす要因（1）－詐欺脆弱特性尺度の信頼性・妥当性の検討－

上野 大介（京都府立医科大学）

天野 将明（京都府立医科大学）

松岡 照之（京都府立医科大学）

成本 迅（京都府立医科大学）

PO2-18 詐欺脆弱特性と消費者被害経験に影響を及ぼす要因（2）－回帰分析による検討－

天野 将明（京都府立医科大学）

上野 大介（京都府立医科大学）

松岡 照之（京都府立医科大学）

成本 迅（京都府立医科大学）

PO2-19 心拍検出課題の成績は外部感覚刺激の予測に影響を受ける

木村 健太（産業技術総合研究所）

大平 英樹（名古屋大学）

PO2-20 動脈血圧反射による社会的痛みの緩和に関する追試的検討

伊崎 翼（高知工科大学）

石井 圭（産業技術総合研究所）

浅原 亮太（産業技術総合研究所）

木村 健太（産業技術総合研究所）

PO2-21 認知的感情制御とストレスの特性との関連－経験サンプリング法を用いて－

陳 暁雪（立命館大学）

川野 健治（立命館大学）

PO2-22 働く人のストレスの軽減に有効なポジティブ・混合感情特性の検討

菅原 大地（筑波大学）

長峯 聖人（東海学園大学）

黒田 莉沙（星和電機株式会社）

田川 順一（星和電機株式会社）

八斗 啓悟 (筑波大学)

松本 彩花 (筑波大学)

PO2-23 生活ストレスとネガティブ感情がむちゃ食いに及ぼす影響

松尾 浩一郎 (福山市立大学)

村田 奈津実 (中津市立真坂保育所)

PO2-24 シャイな学生は遠隔授業を好むー学習活動に対する動機づけを含めた検討ー

稲垣 勉 (京都外国語大学)

PO2-25 不快な対象の想起を伴う気晴らしが気分状態と問題解決的思考に及ぼす影響

石川 遥至 (早稲田大学)

亀山 和泉 (早稲田大学)

越川 房子 (早稲田大学)